

松本誠一教授の略歴と研究業績

略 歴

[学歴]

- 1973. 3 東洋大学社会学部 社会学科卒業 (社会学士)
- 1973. 4 東洋大学大学院社会学研究科 社会学専攻修士課程 入学
- 1976. 3 東洋大学大学院社会学研究科 社会学専攻修士課程 修了 (社会学修士)
- 1976. 4 東洋大学大学院社会学研究科 社会学専攻博士課程 入学
- 1979. 3 東洋大学大学院社会学研究科 社会学専攻博士課程 単位取得満期退学

[職歴]

- 1983. 8 (大韓民国私立) 慶熙大学校外国語大学日語日文学科 待遇専任講師 (～1985. 2)
- 1985. 4 東洋大学社会学部社会学科 専任講師
- 1988. 4 東洋大学社会学部社会学科 助教授
- 1995. 4 東洋大学社会学部社会学科 教授
- 1996. 4 東洋大学大学院社会学研究科 福祉社会システム専攻修士課程 担当
- 2000. 4 東洋大学社会学部社会文化システム学科 教授
- 2006. 4 東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科 福祉社会システム専攻修士課程 担当
- 2018. 4 東洋大学大学院社会学研究科 福祉社会システム専攻修士課程 担当
- 2020. 3 東洋大学定年退職

(非常勤講師)

- 1979. 4 東洋大学文学部非常勤講師 (人類学・文化人類学担当, ～1983. 9)
- 1979. 4 東洋大学短期大学非常勤講師 (文化人類学, ～1982. 3)
- 1980. 4 武蔵野美術大学非常勤講師 (文化人類学, ～1981. 3)
- 1982. 4 亜細亜大学非常勤講師 (社会学, ～1983. 9)
- 1986. 4 山口大学人文学部講師 (社会人類学特殊講義「韓国の村祭り——民俗文化と地域社会への接近」, ～1986. 9)
- 1991. 7 放送大学非常勤講師 (集中面接授業「韓国の文化と社会」, ～1992. 3)
- 1993. 4 跡見学園女子大学非常勤講師 (文化学特殊演習・文化学特殊研究, ～1994.3)
- 1997. 4 跡見学園女子大学非常勤講師 (文化学特講「性と年齢の人類学」, ～1998. 3)

1999. 12. 23 NHK 学園高等学校専攻科「文化人類学」スクーリング講師
2002. 9. 29 NHK 学園高等学校専攻科「文化人類学」スクーリング講師
(共同研究員等)
1979. 4 東洋大学アジア・アフリカ文化研究所 研究員
1981. 4 国立民族学博物館 共同研究員(～1982. 3)
1982. 4 国立民族学博物館 研究協力者(～1996. 3)
1995. 4 カナダ McGill 大学 Centre for East Asian Studies, Research Associate(～1996. 3)
2003. 4 韓国外国語大学校日本研究所 外国人研究員(～2004. 3)

[学会・社会における活動]

1969. 5 日本民族学会会員(日本文化人類学会会員として継続)
1977. 6 日本社会学会会員
1979. 家族問題研究会会員
1983. 10 韓国文化人類学会会員
1983. 11 白山社会学会会員
1984. 4 比較民俗学会(韓国に本部) 会員
1986. 9 日本民俗学会会員
1989. 7 国際人類学・民族学会(IUAES) 会員
1990. 9 白山人類学研究会会員
1991. 8 国際シャマニズム学会(International Society for Shamanistic Research) 会員
1991. 6 比較家族史学会会員
1991. 日本家族社会学会会員
1999. 7 韓国・朝鮮文化研究会 理事(～2008)
2008. 韓国・朝鮮文化研究会 会計監査(現在にいたる)
2011. 6 島嶼コミュニティ学会会長(現在にいたる)
2012. 7 白山社会学会副会長(～2013. 7)
2012. 8 比較民俗学会副会長(日本地区)(～2017)
2013. 7 白山社会学会 会長(～2019. 7)

著書・論文

[編著書]

1990. 11 「済州島家族論の検討——世帯規模の東西差」竹田旦編『民俗学の進展と課題』東京：

- 国書刊行会, 715p., pp.251-272.
1990. 11 「洞りの境界」 杉山晃一・櫻井哲男編『韓国社会の文化人類学』東京：弘文堂, 195p., pp.56-71.
1993. 11 「父母子女関係の変化について—韓日親族と家族の予備的考察」（韓国語）濟州市・濟州大学校博物館編『第1期博物館大学市民講座』濟州市：濟州市・濟州大学校博物館, 379p., pp.353-367.
1996. 8 「韓国の村落と家族」 佛教大学総合研究所編『東アジアの村落と家族』京都：佛教大学総合研究所, 76p., pp. 22-24; 61-65.
1998. 7 清水浩昭・芳賀正明・松本誠一編『性と年齢の人類学』（高橋統一先生古稀記念論文集）東京：岩田書院, 364p.
1999. 3 「人類学の世界化」『東洋大学社会学部 40 周年記念論集』東洋大学社会学部, 273p., pp. 213-227.
2000. 3 「日本離島における高齢化と八丈島」 松本誠一編『離島における高齢者の生活形態の調査・研究事業 報告書（財団法人・長寿社会開発センター委託事業）』東京：松本誠一, 55p., pp.1-9.
2006. 6 「韓国ナショナリズム」『グローバリズムおよびナショナリズムの両圧力下におけるアジアの伝統文化と価値観の変容——アジア地域研究センター 5 年間の活動を通して』東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター, 107p., pp.87-89.
2009. 10 「社会文化システム学科」『東洋大学社会学部 50 年史——1990 年代以降を中心に』東洋大学社会学部, 183p., pp.80-84.
2010. 3 「韓国における都市化と祭り——全南・ソウルにおける神と人との関係の変化」『アジア社会の発展と文化変容』東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター, 308p., pp.89-128.
2014. 6 松本誠一・高橋重郷編『社会・人口・介護からみた世界と日本——清水浩昭先生古稀記念論文集』東京：時潮社, 445p.
2016. 2 （編著）『国境をまたぐ生活スタイル——アジアにおける広域調査と事例調査に向けて』東洋大学アジア文化研究所, 86p.
2017. 1 （編著）『国境をまたぐ生活スタイル——量的研究に向けて』東洋大学アジア文化研究所, 75p.
2017. 8 「山下袈裟男先生と白山社会学会」『命つきるとも——静かな闘志と平和への祈りを残して（山下袈裟男先生追悼論文集）』東京：山下袈裟男先生追悼文集刊行委員会, 189p., pp.85-90.
2017. 10 「監修者まえがき」 西田知未訳著『韓国濟州道老人論考』東京：新幹社, 262p., pp.

5-7.

2018. 9 「済州島の老人たち——節約と自立の精神」 梁聖宗・金良淑・伊地知紀子編著『済州島を知るための55章』東京：明石書店，358p., pp.118-119.

〔教科書〕

1980. 5 「日韓両国の民俗文化—宮座と堂祭組織比較序説」 高橋統一ほかと共著『文化人類学の視角——伝統と現代』東京：犀書房，370p., pp.187-211.
1987. 5 高橋統一・芳賀正明・松本誠一（共著）『文化人類学ノート』東京：犀書房，133p., 担当：「ヒトと文化」 pp.11-20; 「生業とエコロジー」 pp.21-26; 「性と世代・年齢」 pp.47-56; 「(祭の諸相 II) 韓国」 pp.103-112.
2004. 2 「序章 齢をかさねる」 松本誠一（編）『生活文化論ノート』高志書院，210p., 166p., pp.3-14.
2008. 4 「東洋大学と社会調査—戸田貞三・鈴木榮太郎・小山隆・奥田道大」（共著）『社会学・社会福祉学研究のための研究基礎論——研究に必要な基礎的事項を学ぶ』東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科福祉社会システム専攻，pp.45-53.
2011. 3 「社会経験を通じて鍛えられる知」 東洋大学福祉社会システム専攻出版委員会編『経験と知の再構成——社会人のための社会科学系大学院のススメ』東京：東信堂，153p., pp.129-146.

〔論文〕

1977. 2 「幕末維新期の移動慣例——身分と職業移動・『全国民事慣例類集』の分析」『東洋大学大学院紀要』（13）: 67-78.
1978. 3 「欠落人の復帰——幕末期の移動制限」『東洋大学大学院紀要』（14）: 73-82.
1981. 3 「湖南堂山祭の祭祀組織と変化——全羅南道長城郡長城邑Y里の事例・ファジュ（化主）と当家を中心に」『東洋大学アジア・アフリカ文化研究所 研究年報』（15）: 69-88.
1982. 3 「とうや製の類型と分布」『東洋大学大学院紀要』（19）: 21-40.
1984. 3 「韓国の『自然部落』について」『東洋大学アジア・アフリカ文化研究所 研究年報』（18）: 29-44.
1984. 6 「東海岸狗岩のコルメギ洞神祭と洞組織」日韓漁村社会・経済共同研究会『日韓合同學術調査報告第2輯 韓国慶尚北道平海邑厚浦里』pp. 232-245.
1985. 8 「韓国の村祭り——全羅南道漁村の事例」『教育と医学』33(8): 65-70.
1987. 2 「韓国の『小家族』について」『家族研究年報』（12）: 85-94.
1987. 7 「民籍調査と《隠居》」『韓』（107）: 137-175.

1990. 3 (共著)「韓国の地域社会と老人の地位——伝統と近代をめぐって」『東洋大学アジア・アフリカ文化研究所 研究年報』(24): 79-122. 担当:「慶尚北道の老人問題に関する地域特性と両班老人会」 pp. 108-115.
1992. 6 「世界の人類学」『白山人類学』(1): 56-64.
1997. 2 「『海禁』時代の山陰地域漂着民に関する小考」(韓国語) 安東大学校民俗学研究所『民俗研究』(7): 3-12.
1998. 3 (共著)「韓国東海岸・漁村社会の近代化と文化伝統——慶尚北道蔚珍郡竹辺の事例」『東洋大学アジア・アフリカ文化研究所 研究年報』(32): 11-72. 担当:「蔚珍郡・竹辺面の概況と歴史的背景」 pp. 14-20;「正月告祀と豊漁祭—東海岸ポンスジンの祭儀と村組織」 pp. 26-33.
1999. 1 “Age and Local Community in Japan and Korea”,『東洋大学社会学部紀要』(36-2): 39-67.
2000. 3 「モントリオール韓人墓碑銘」『東洋大学アジア・アフリカ文化研究所 研究年報』(34): 59-80.
2001. 3 「モントリオール韓人教会 I」『東洋大学アジア・アフリカ文化研究所 研究年報』(35): 56-70.
2002. 2 「性と年齢の儀礼——現代の視点」『教育と医学』50(2): 48-52.
2002. 3 「モントリオール韓人教会 II」『東洋大学アジア・アフリカ文化研究所 研究年報』(36): 51-59.
2003. 11 「韓国大学の人類学教育」『東洋大学社会学部紀要』(41-1): 82-99.
2004. 2 「韓国の世界化と大学教育——韓国外語大学校の事例を通して」『東洋大学社会学部紀要』(41-2): 147-180.
2005. 3 「(研究ノート) ミャンマーの韓人社会」東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター『学術フロンティア報告書 2004 年度』, pp.78-89.
2008. 8 (共著)「十勝帯広における福祉社会システム——概況, 外国籍者と国民年金制度について」『福祉社会開発研究』(1): 57-64. 担当:「本稿の目的と課題」「十勝地域と帯広都市圏」「十勝・帯広の外国人」 pp. 57 ~ 60.
2009. 3 「《特集》 日韓境域のトランスナショナリティ——済州人を中心に 序論」『白山人類学』(12): 1-6.
2009. 8 「モントリオールのパレード——1995 年のケベックデーとカナダデーを中心に」『民俗文化研究』(10): 24-53.
2010. 2 「アジア・アフリカ研究所とバンドン会議」『東洋大学アジア文化研究所研究年報』(44): 193-204.

2011. 2 「transnational ノート」『東洋大学アジア・アフリカ文化研究所 研究年報』(44): 19-24.
2011. 3 「地方都市における地域社会統合と周辺——帯広市における外国籍者の存在形態を例として」『福祉社会開発研究』(1): 77-87.
2011. 3 「台湾韓人研究ノート」『白山人類学』(14): 103-132.
2012. 6 「高齢者の多い地域社会における共同——八丈島と奥会津山村の比較を通じて」『島嶼コミュニティ研究』(1): 34-60.
2015. 10 「【問題提起】ネーション・グローバル化・跨境——韓国の挑戦, 生活者の適応」『韓国朝鮮文化研究』(14): 7-32.

(宮座・契約講)

1978. 11 (共著) 契約講の社会人類学的研究Ⅰ——山形県西置賜郡小国町市野々・大石沢の事例 東京都立大学社会人類学会編『社会人類学年報』4: 173-206. 担当: 「ケイヤクの分布と諸形態」 pp. 173-184; 「事例Ⅱ 大石沢」の「ムラの概況と契約講の変遷」「現在の契約講とムラ組織」 pp.194-197. 4 (共著) 「宮座の組織と儀礼に関する社会人類学的覚書——滋賀県余呉町下丹生の場合」『東洋大学大学院紀要』(15): 77-89, 担当: 「ムラ組織の概要」 pp.81-83; 「宮座儀礼」 pp.85-89.
1980. 3 (共著) 「宮座の社会人類学的調査Ⅴ——滋賀県伊香郡余呉町下丹生の事例」『東洋大学アジア・アフリカ文化研究所 研究年報』(14): 133-158. 担当: 「ムラ組織」 pp. 137-140; 「宮座組織」 pp. 145-149.
1982. 3 (共著) 「宮座の社会人類学的調査Ⅵ——奈良県生駒郡平群町富貴畑の事例」『東洋大学アジア・アフリカ文化研究所 研究年報』(16): 11-34. 担当: 「イトナミ講」 pp. 23-29.
1982. 3 (共著) 「契約講の社会人類学的研究Ⅱ——山形県最上郡および西村山郡の事例」『東洋大学アジア・アフリカ文化研究所 研究年報』(16): 11-34. 担当: 最上郡大蔵村赤松の「調査地の概況」 pp. 63-66; 「ムラ組織と契約」 pp. 68-71, 西村山郡河北町沢畑の「調査地の概況」 pp. 71-73; 「契約会と町内会, ムラ組織」 pp. 76-79, 同郡大江町塩野平の「調査地の概況」 pp. 79-83; 「ムラ組織と契約講」 pp. 86-88.
1989. 11 「宮座とくとうや制」『月刊歴史手帖』17(11): 16-18.
1996. 3 (共著) 「神話・天領・近代化——山陰・東石見の漁村と山村」『東洋大学アジア・アフリカ文化研究所 研究年報』(30): -, 担当: 「水上神社の秋祭」 pp.20-21; 「海上筏レースと仮屋行事」 pp.29-32; 「花田植」 pp. 36-37; 「盆踊りと精霊舟」 pp. 50-51.

[目録]

1988. 3 「日本における文化人類学的韓国調査の展開 1960～1980——付・韓国研究者別著

述目録 日本人：文化人類学・民俗学編 1965～1987』『東洋大学社会学部紀要』
25-2: 37-76.

1994. “Topics in the Anthropological Study of Shamanism in Japan”, International
Society for Shamanistic Research, Shaman 2(1): 67-78.
2013. 8 “Bibliography: Japanese Studies on Korea (English translation)” . In Hyup Choi
(ed.), Representing the Cultural 'Other' : Japanese Anthropological Works on
Korea. pp.201-327. Gwangju: Chonnam National University, Korea.
2013. 8 “Bibliography: Japanese Studies on Korea (Korean translation)” , In Hyup Choi
(ed.), Ibid. pp.328-447.

【翻訳】

1982. 12 張壽根（著）『韓国の郷土信仰』255p. 東京：第一書房
1986. 2 韓相福（著）「韓国山村住民の儀式と信仰——江原道平昌郡道岩山二里および鳳山里
の事例」『東洋大学社会学部紀要』23-2: 141-166.
1991. 2 秦恩淑（韓国語訳）「済州島家族の検討——世帯規模の東西差」『耽羅文化』11:169-
190, 済州大学校耽羅文化研究所
2014. 2 吉川美華と共編訳『韓国移民関連法令集』東洋大学アジア文化研究所, 152p.

【書評・書誌紹介】

1986. 2 「依田千百子『朝鮮民俗文化の研究——朝鮮の基層文化とその源流をめぐって』」『現代
コリア』259: 66-67.
1998. 1 「多摩市史を読んで考える——新旧二つの文化」『印西新報』123: 4
1998. “Kendall, Laurel, Getting Married in Korea: Of gender, Morality, and Modernity”
Asian Folklore Studies, Vol.LVI-2 (1997), Nagoya: Nanzan University
1998. 7 「瀬地山角『東アジアの家父長制—ジェンダーの比較社会学』」『家族社会学研究』
10(2): 149-151.
2003. 9 「韓国・朝鮮文化研究会『韓国朝鮮の文化と社会』第1号」『民族学研究』68(2): 307-
309.
2007. 10 「裴宗鎬著, 川原秀城監訳『朝鮮儒学史』」『韓国朝鮮の文化と社会』6: 239-242.
2008. 8 「山路勝彦著『近代日本の植民地博覧会』2008年 風響社発行」『民俗文化研究』9:
212-215.
2018. 9 「書評 榎澤幸弘著『離島と法——伊豆諸島・小笠原諸島から憲法問題を考える』」公益
財団法人・日本離島センター『季刊 しま』64(2): 108.

[事典]

1996. 2 「韓国・朝鮮の祖先祭祀」『事典 家族』, p.570, 東京: 弘文堂
1996. 2 「男子家屋」『事典 家族』, p.592, 東京: 弘文堂
1996. 2 「入家儀礼」『事典 家族』, p.660, 東京: 弘文堂
1996. 2 「年齢集団」『事典 家族』, pp.672-673, 東京: 弘文堂
1999. 10 「契約講」『日本民俗大辞典』(上巻), p.563, 東京: 吉川弘文館
2006. 3 「契約講」『精選日本民俗辞典』, p.181, 東京: 吉川弘文館

[その他]

1978. 7 「秋葉隆博士について」千葉県郷土史研究連絡協議会『房総の郷土史』五周年記念特集号: 147-148.
1985. 3 「金賢準博士の足跡」『白山社会学会会報』(3): 19-22.
1985. 3 「韓国研究消息」『東洋大学アジア・アフリカ文化研究所 研究年報』(19): 121-128.
1985. 3 「犬が好き」『現代コリア』(254): 2-3.
1985. 6 「千酌のムラ組織メモ」『日韓合同学術調査報告第3輯 島根県境港市, 島根県美保関町』, pp.281-283.
1985. 3 「理解して下さい」『現代コリア』(257): 62-63.
1986. 2 「茶房」『基礎ハングル』1(10): 56-57.
1986. 3 「韓国大学消息——1983 年～1984 年」『東洋大学アジア・アフリカ文化研究所 研究年報』(20): 121-128.
1986. 3 「KOREA の生活——衣食住」『基礎ハングル』1(11): 29-31.
1986. 7 「韓国の指暦」『民博通信』(33): 1-3.
1986. 9 「韓国の家族の動向」『世界の児童と母性』(21): 6-9.
1987. 1 「農楽」『基礎ハングル』2(9): 48-49.
1987. 1 「氷盤」『現代コリア』(268): 3-4.
1987. 3 「村祭り」『基礎ハングル』2(11): 48-49.
1987. 「国民道徳論と朝鮮総督府——朝鮮民俗研究史ノートとして」『東洋大学昭和 61 年度特別研究報告書』, pp. 224-230.
1988. 11 「征韓論の前」『東洋大学昭和 62 年度特別研究報告書』, pp. 200-213.
1988. 12 「北海道——韓国で思ったこと」北海道民俗文化研究会『北海道を語る』(17): 73-76.
1989. 11 「開国以前の朝鮮進出——周防馬島を中心に」『東洋大学昭和 63 年度特別研究報告書』, pp. 260-266.
1990. 3 「(第 11 回国際人類学・民族学会議) コリアニスト部会報告」『民族学研究』54(4):

- 507.
1990. 3 「東洋大学社会学部 30 周年の歩みと将来に向けて」『東洋大学社会学部 30 年史』, pp. 95-100.
1990. 3 「東洋大学社会学部史の文献と資料」『東洋大学社会学部 30 年史』, pp. 115-123.
1990. 3 「学内各種通信や新聞の総索引化にむけて」『東洋大学社会学部 30 年史』, pp. 146-162.
1990. 11 「薩摩と南」『東洋大学平成元年度特別研究報告書』, pp. 275-284.
1991. 「九州の辺境人——熊本スピリッツ・朝鮮観」『東洋大学 1990 年度特別研究報告書』, 114-119.
1991. 12 「朝鮮半島問題に寄せて」東洋大学『フィロス東洋』(5): 24-25.
1992. “Japanese Social Anthropological Studies on Korea”, Cahiers d'Extreme-Asie (フランス国立極東学院京都支部・法實義林研究所『極東アジア研究紀要』), Vol.6, 1991-1992, p. 280.
1993. 「真理の言葉—ハンゲル」東洋大学『サティア あるがまま』(11): 11.
1993. 5 「第二部社会学科」『東洋大学百年史 部局史編』, pp. 307-315.
1993. 11 「『戸田貞三旧蔵書目録』作成の経緯」大空社『戸田貞三著作集』別巻: 309-314.
1994. 6 「ニュータウン住民の“まつり”と地域形成」『印西新報』(80): 5.
1994. 11 「長寿化とく専門の短命化」, 専門間を結ぶ教養」東洋大学『フィロス東洋』(12): 27-29.
1998. 「六堂 崔南善と不成文化論」東洋大学図書館『コスモス』(121): 1.
2002. 1 「芳賀正明教授を悼む」『東洋大学報』(179): 18.
2004. 2 「台湾調査報告」『東洋大学アジア文化研究所 研究年報』(38): 101-113.
2006. 2 「インドネシア韓人社会調査」『東洋大学アジア文化研究所 研究年報』(40): 134-136.
2007. 1 「(巻頭言)アジア研究と交流——『歴史認識の差』に関連して」東洋大学アジア文化研究所『Frontier ニュースレター』(7): 1.
2007. 2 「ベトナムの韓人社会」『東洋大学アジア文化研究所 研究年報』(41): 128-130.
2007. 3 「東南アジアの韓人社会略史——タイ・インドネシア・ミャンマー・シンガポール・ベトナム」東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター『学術フロンティア報告書 2004 年度』, pp.101-113.
2009. 4 「対馬帰属問題資料」『東洋大学図書館ニュース コスモス』(41): 4-5.
2014. 8 「追悼 高橋統一先生」『白山人類学』(17): 63-66.
2015. 6 「コジエド(巨済島)と対馬島の相互遠望について」『島嶼コミュニティ研究』(3): 54-56.
2016. 4 Seiichi Matsumoto, “Comments for Special Issue, Anthropology of Japan in

- Korea and Anthropology of Korea In Japan” , Japanese Review of cultural Anthropology, (16): 229-232.
2017. 2 「Dr. Fumiko Ikawa-Smith (井川史子) マギル大学名誉教授(人類学・考古学)を迎えて『縄文丸木舟を見,語る会』『東洋大学アジア文化研究所 研究年報』(51): 446-450.
2018. 2 「東洋大学 能海寛生誕 150 年記念事業 報告」『東洋大学アジア文化研究所研究年報』(53): 147-149
2018. 「植野弘子さんと白山人類学研究会」『白山人類学』(21) : 1-3.
- (韓流関係)
- 2004.5.22 [松本美佐子と連名]「일본의 ‘용사마’ 열풍」(日本の「ヨンサマ」熱風)『文化日報』, p.22.
- 2004.7.25 KBS 日曜スペシャル「일본을 사로잡은 겨울연가 열풍」(日本を捉えた冬ソナ熱風)
[松本美佐子と共同取材を受け,番組中ほどで出演]
2005. 8. 5 講演「日韓友情年 2005 に寄せて——『冬のソナタ』を通じて考える」静岡県浜北市
2005. 9. 22 同上, 岩手県大船渡市
2005. 10. 22 同上, 千葉県鴨川市
2005. 11. 12 同上, 神奈川県川崎市
2006. 11. 1 向山昌子氏・松本美佐子氏と座談「文化人類学者が見た韓流」『It's KOREAL イッソコリアル』2(6): 17-22, 東京: オークラ出版
2008. 8 講演「韓国文化の癒し」群馬県伊勢崎市赤堀公民館
2015. 2. 4 「キーパーソンに聞く 韓流ドラマが 10 年生き残ったわけ ブームから今は一つのジャンルに」日経ビジネス宮澤徹副編集長の取材を受け, 宮澤氏が文章化。日経ビジネスオンライン
<http://business.nikkeibp.co.jp/article/interview/20150203/277079/>
2015. 5. 24 「13 年ぶりの再会『冬ソナ2』ポスト“ヨン様”“ジウ姫”で囁かれる名前」フリージャーナリスト・笹井恵理子氏の取材・文章化。『サンデー毎日』94(20): 125-126.
2015. 6. 13 [招請報告]「日韓交流と韓流ブームの現状」国際アジア学会シンポジウム「アジアと日本の交流問題」於駒澤大学
2015. 7. 1 「『韓流ドラマ』と日韓文化交流の可能性」末松光城副編集長の取材・文章化。『潮』(677): 66-69.